

第2期熊本市自殺総合対策計画（素案）に関するパブリックコメントの結果について

1 目的

第2期熊本市自殺総合対策計画（素案）について、広く市民の意見を聴取し、計画策定に反映させるため、「熊本市パブリックコメント実施要綱」に基づき実施した。

2 意見募集期間 令和5年12月25日～令和6年1月24日

3 意見募集の方法

熊本市ホームページ掲載、こころの健康センター窓口、区役所総務企画課、まちづくりセンター（中央区まちづくりセンターを除く。）、中央公民館、中央区まちづくりセンター大江交流室、中央区まちづくりセンター五福交流室、河内まちづくりセンター河内交流室、河内まちづくりセンター芳野分室、城南まちづくりセンター城南交流室、総合保健福祉センター及び各地域コミュニティセンターでの縦覧。

4 意見の提出状況

意見を提出された方の人数	6名
ご意見の件数（まとめりごと）	10件

5 提出されたご意見と、それに対する本市の考え方 別紙記載のとおり  
 ※いただいたご意見は、趣旨を要約させていただいております。また、同内容のご意見は一項目として取りまとめさせていただきました。

（内訳）

【対応1（補足修正）】		
ご意見を踏まえて素案を補足修正または追加記載したもの		3件
【対応2（既記載）】		
既にご意見の趣旨、考え方を盛り込んでいる、あるいは同種の記載をしているもの		1件
【対応3（説明・理解）】		
市としての考えを説明し、ご理解いただくもの		2件
【対応4（事業参考）】		
素案には盛り込めないが、事業実施段階で考慮すべき事として今後の参考とするもの		2件
【対応5（その他）】		
素案に対する意見ではないが、意見として伺ったもの		2件

提出されたご意見とそれに対する本市の考え方

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳
素案全体に関すること	個人の孤独、孤立や地域社会の分断の解決策を検討してほしい。	孤独・孤立対策については、重要な課題であると認識しており、NPO 等民間団体との連携による支援体制の構築や、シンポジウム開催による普及啓発等に取り組んでいるところです。今後も関係課と協議をしながら対策を検討してまいります。 ご提案については、事業の検討にあたって参考とさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
	自殺と貧困の関係は非常に根深い。裕福ならば自殺率は減る。貧困に根本原因がある。女性の自殺率が増加傾向にあるのは、コロナで職を失う女性が増え、貧困率が増えているからといわれている。自殺と貧困との関連統計を整理・整備していただきたい。	ご意見のとおり、貧困、生活困窮者への対策については、非常に重要であると認識していますので、今後も関係課と協議をしながら対策を検討してまいります。 ご提案については、事業の検討にあたって参考とさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
「こども・若者の自殺への対策に」について	夏休みなどの休み前にいじめを受けていたりした場合は、休み明けなどには、強いストレスが生じると思われる。特に、休みの期間は大人が関わる時間が少なくなる傾向にあるため、何らかのアンケートなどがあるとよいのではないかとと思う。	ご意見のとおり、夏休み後には自殺のリスクが高くなるため、対策が必要であると認識しています。P19「定期的なアンケートの実施」として取り組み、ご提案については、事業実施にあたって参考とさせていただきます。	対応2 (既記載)
「自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ対策」について	「女性は高ストレス状況及び家事・育児等、女性が多く担ってきた役割を負うなかで精神科医療とのつながりが絶たれ」について 「女性は高ストレス状況」とい	ご指摘のとおり、「高ストレス状況」について補足するため、以下のとおり、表現を修正します。 「女性は、災害後やコロナ禍での高ストレス状況及び家事・育児等の役割を負うなかで、精神科医療	対応1 (補足修正)

	うのがわかりづらい。	とのつながりが絶たれ、支援に繋がりにくくなることで自殺リスクが悪化する可能性があります。」	
	「自殺未遂者やその家族への相談対応」について 厚労省が策定した「自殺総合対策大綱」では、「家族等の身近な支援者に対する支援」となっていることから、本計画でも変更が必要ではないか。	ご指摘のとおり、「身近な支援者」を追記し、以下のとおり修正いたします。 「本市では自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐため、自殺未遂者や家族等の身近な支援者への相談対応、関係機関との連携を強化します。」	対応1 (補足修正)
「自殺対策を支える人材の育成」について	見守る「ゲートキーパー」の役割を担う人材の養成が必要です。住民一人ひとりがその担い手となるよう、研修等を通して人材育成を行います」 わかりづらい表現なので、シンプルにしてはどうか。	ゲートキーパーの役割が正しく伝わるよう以下のように文言を修正いたします。 「ゲートキーパー（自殺に傾くサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要に応じて専門家につなぎ、見守る）」の役割を担う人材の養成が必要です。	対応1 (補足修正)
「市民への啓発と周知」について	相談窓口の存在を知らない方（情報弱者の方）への周知はどのようにになっているのか。回覧板での周知、公共の場所・人の集まる場所での掲示、TVコマーシャル等、身近に目についた記憶がない。定期的な周知をお願いしたい。	9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間には、自殺予防に関する周知を強化し、市政だよりやラジオ、SNS等で情報を発信しています。今後も多くの方に情報を届けられるよう、広報の強化に努めてまいります。 ご提案については、事業の検討にあたって参考とさせていただきます。	対応4 (事業参考)
「勤務・経営問題への対策」について	これまで多くの取組がなされているものの、社会的及び経済的に大きな損失となる40～50歳代の労働者や失業者に対する情報提供や即応できる体制の構築が必要であると考えられる。企業や団体に対する訪問活動も有効と考える。	自殺者数の多い40～50歳代の方への対策は重要であると認識しています。自殺対策連絡協議会の委員である労働基準監督署や熊本地域産業保健センターと連携しながら対策を行ってまいります。ご提案については、事業実施にあたって参考とさせていただきます。	対応4 (事業参考)